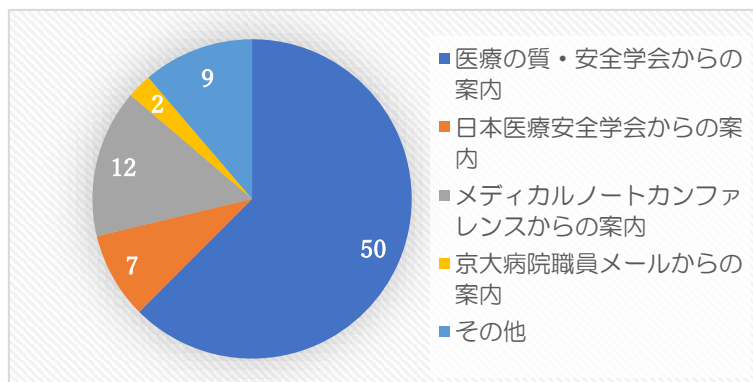


## <自殺対策シンポジウム 2024 in KYOTO アンケート結果>

2024年1月22日に開催した「自殺対策公開シンポジウム in KYOTO 2024」に参加された皆さまを対象にアンケートを実施しました。

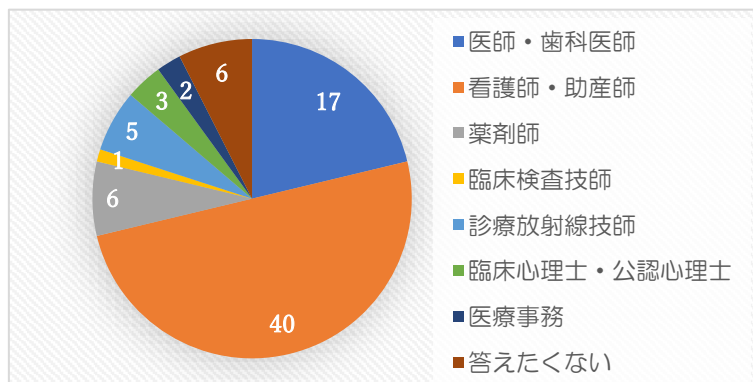
【アンケート結果】（※自由記述の回答結果は除く）

Q1：本シンポジウムの開催をどこで知りましたか



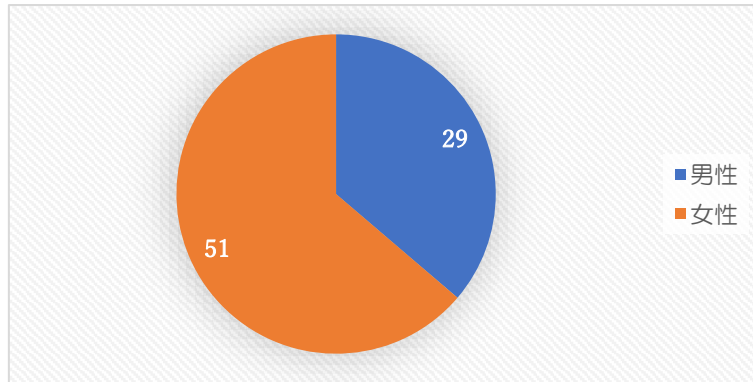
半数以上の方が「医療の質・安全学会」からの案内でご参加いただきました。次に多かったのは「メディカルノートカンファレンス」からの案内です。その他、さまざまな媒体を通して多くの方に参加していただきました。

Q2：職種を教えてください



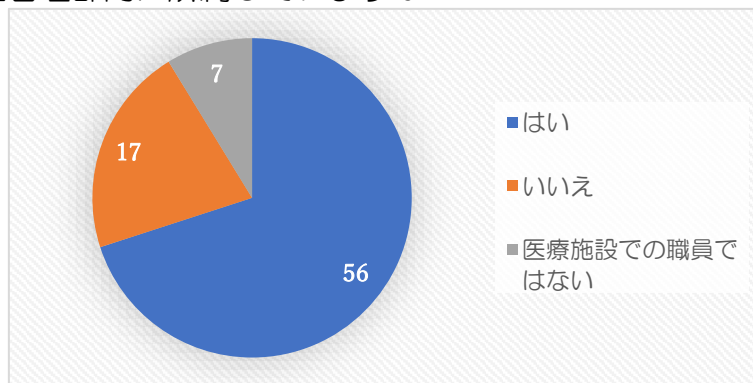
「看護師・助産師」の方が半数を占めており、次に「医師・歯科医師」の方が多いたことが分かります。また、「医療事務」の方にもご参加いただき、多くのコメディカルの方々にご参加いただきました。

Q3：性別を教えてください



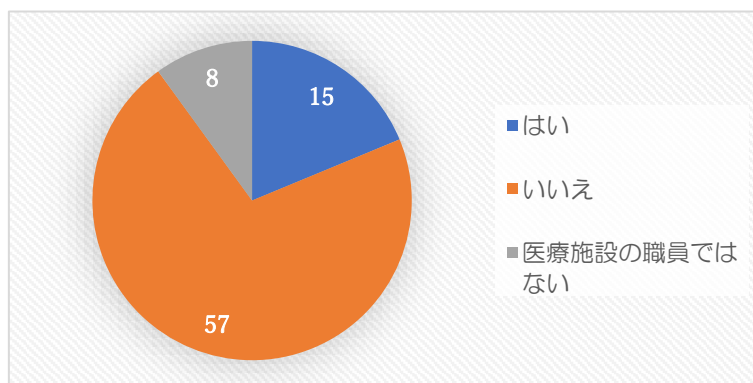
女性が過半数を占めていることがわかります。性別問わず多くの方に参加していただきました。

Q4：医療安全管理部門に所属していますか



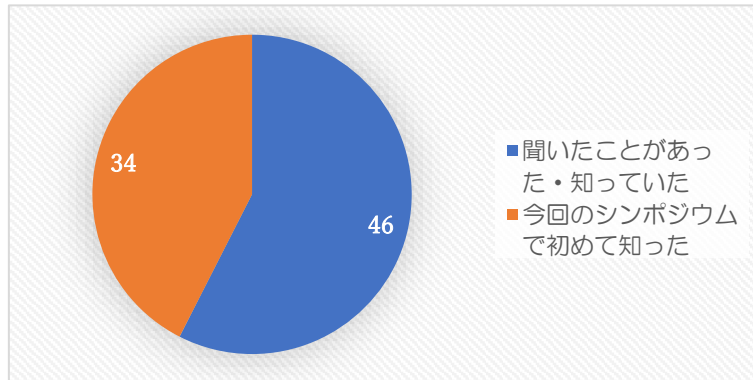
半数以上の方は医療安全管理部門に所属しておられますが、医療安全管理部門に所属していない方や、医療施設の職員ではない方にもご参加いただきました。病院の自殺対策や患者安全について、部署を問わず多くの方に興味を持っていただけていることがわかりました。

Q5：「患者の自殺対策」のチームに所属していますか



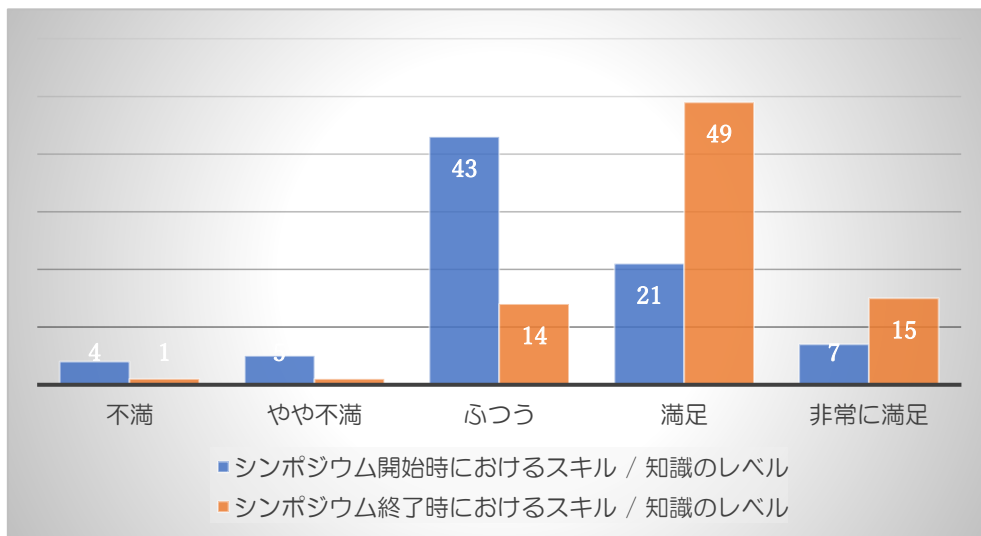
半数以上の方は「患者の自殺対策」のチームに所属していないことがわかりました。医療安全管理部門に所属されている多くの方が、病院での自殺対策について学ぶためにご参加いただいたと考えられます。

Q6：一次予防・二次予防・三次予防の考え方について



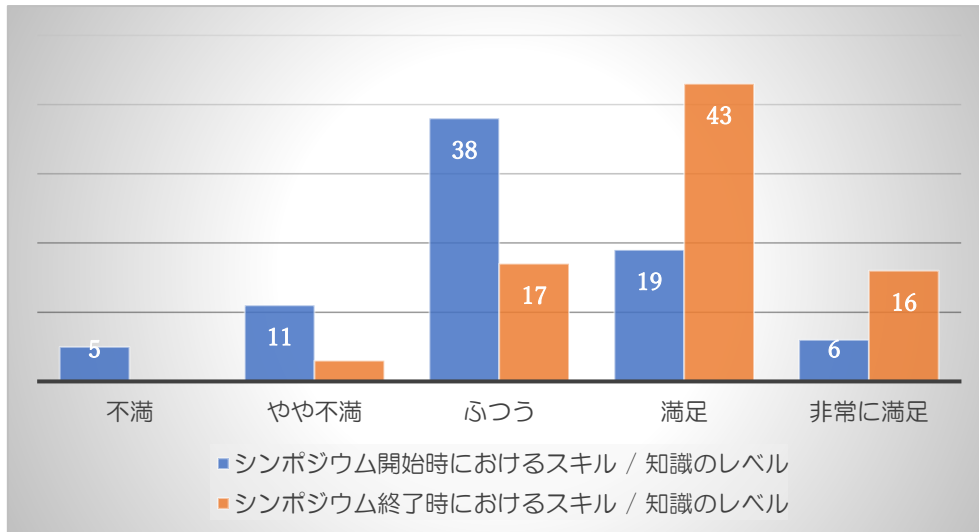
約半数の方は一次予防・二次予防・三次予防の考え方について聞いたことがあると回答されました。本シンポジウムの講演3「三次予防としての医療安全調査・遺族との対話」において、それぞれの考え方について共有することができたと考えられます。

Q7：医療事故調査に関する学習効果を教えてください



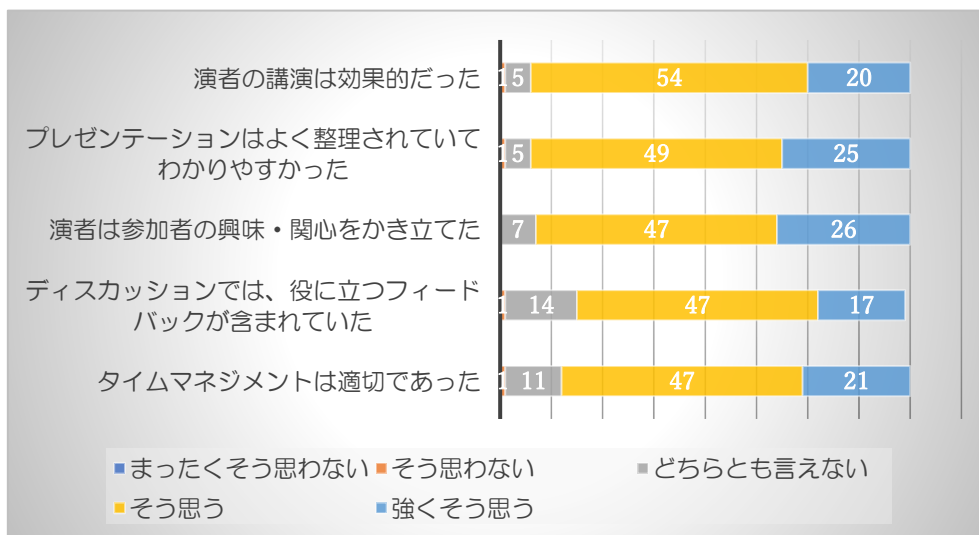
シンポジウム開始時と終了後のスキルや知識のレベルを比較すると、開始時には「ふつう」が最も多かったものの、終了後には「満足」の回答が最も多くなっています。また、「非常に満足」の回答も、開始時の約2倍に増加していることが分かります。

Q8：自殺事例の最高裁判決に関する学習効果を教えてください



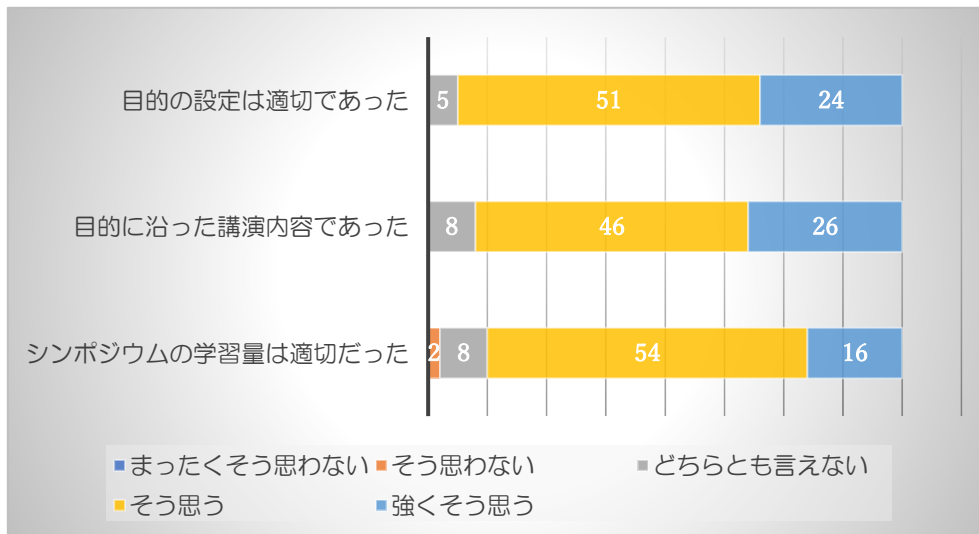
シンポジウム開始時と終了後のスキルや知識のレベルを比較すると、前項と同様に、開始時には「ふつう」が最も多かったものの、終了後には「満足」の回答が最も多くなっています。また、「医療事故調査に関する学習効果」と比較すると、「自殺事例の最高裁判決に関する学習効果」のシンポジウム開始時のスキルや知識のレベルは低かった方が多いことが分かりますが、これは、参加者の方々が法律の専門家ではないためかと思われます。

Q9：シンポジウムの運営・演者のスキル



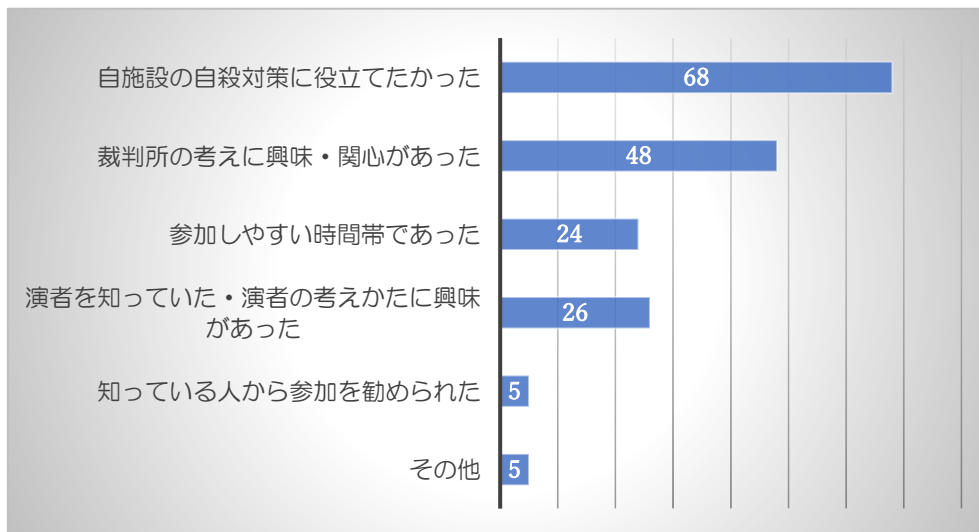
全項目において、「そう思う」の回答が半数を超えて最も多いことが分かります。また、「演者は参加者の興味・関心をかき立てた」という項目において、「まったくそう思わない」と「そう思わない」の回答がなかったことから、多くの参加者の方に興味関心を深めていただけたと考えられます。

Q10：シンポジウムの目的（病院の自殺対策～法的検討・事故後の対応を中心に～）



前項と同様に、全項目において、「そう思う」の回答が半数を超えて最も多いことが分かります。一方で、学習量が適切でないという回答もあり、学習量について検討の余地があると言えます。貴重なご意見をありがとうございました。

Q11：このシンポジウムを選んだ理由は何ですか（複数回答可）



「自身が所属する施設の自殺対策に役立てたかった」という回答が最も多く、多くの方が本シンポジウムで習得した知識やノウハウをご活用いただくことを目的にご参加いただいたことが明らかになりました。

本アンケート調査の結果により、研修による理解度の向上と、研修内容の妥当性を確認することができました。アンケートにご協力いただきありがとうございました。